はぐくむ光 のびる若芽 (138)

木戸 椎名文雄

私の家は、94才の祖母と父、私達夫婦、20才の長男、18才の長女、12才の二男の7人家族と、娘の名づけた犬の茶太郎、猫のシャムがいます。この祖母の健康のおかげで、わが家は円満に、また自由に過ごすことができているのかも知れません。

今でも、留守番はもちろん、庭掃除、草取り、家の中の仕事、食事作りもまだまだできます。わが家は、二男が生まれるまで、野菜作りをしていたので、子供たちは赤ん坊の時から、祖母に風呂に入れてもらったり、子守をしてもらいました。

二男が小学校に入学すると、妻も外の仕事にでるようになったので、ケガの通院までしてもらいました。

その時、他の人に「おばあさんが送り迎えされる年じゃないですか。」と言われたそうです。わが家で祖母は大変元気なので年を忘れて甘えてしまっています。

ありがとう「としよさん。」長男が小学校に入学したのを機会に、親として何をすべきか。今できる事、子供たちにしてあげられる事は何だろうかと考えました。

PTA活動や、地区の子供会活動に参加できたのも、子供たちと一緒に行動することにより、真剣に考えることができる場となった。

親として、子供に教えなければならないことは、「良いものは良い、悪いものは悪い」と言えて、しかも自分で手本を示すこと。つまり良いと思ったことは進んでやり、悪いときづいたらその場で反省し辞めることではないか。これは大変難しいがやらなければならない。

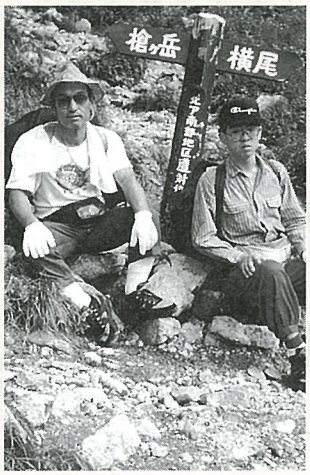
今の大人の世の中が、昔の生活のための生き方から、物、地位を求めるために夢中な時代、他人より自分中心の時代になってしまっている。そのために大切なものを失っていないか。少なくとも今の子供たちに、そうなって欲しくない。

今サッカークラブで子供と「五つの約束」をしている。

一、挨拶は大きな声でする。
一、練習の時は真剣にやる。
一、他人の悪口は言わない。
一、困っている人を見たら助ける。
一、家の手伝は進んでする。

子供の持っている良いものを育ててあげたい。

ありがとう「としよさん」



▲南アルプス槍ヶ岳にて

保健婦メモ

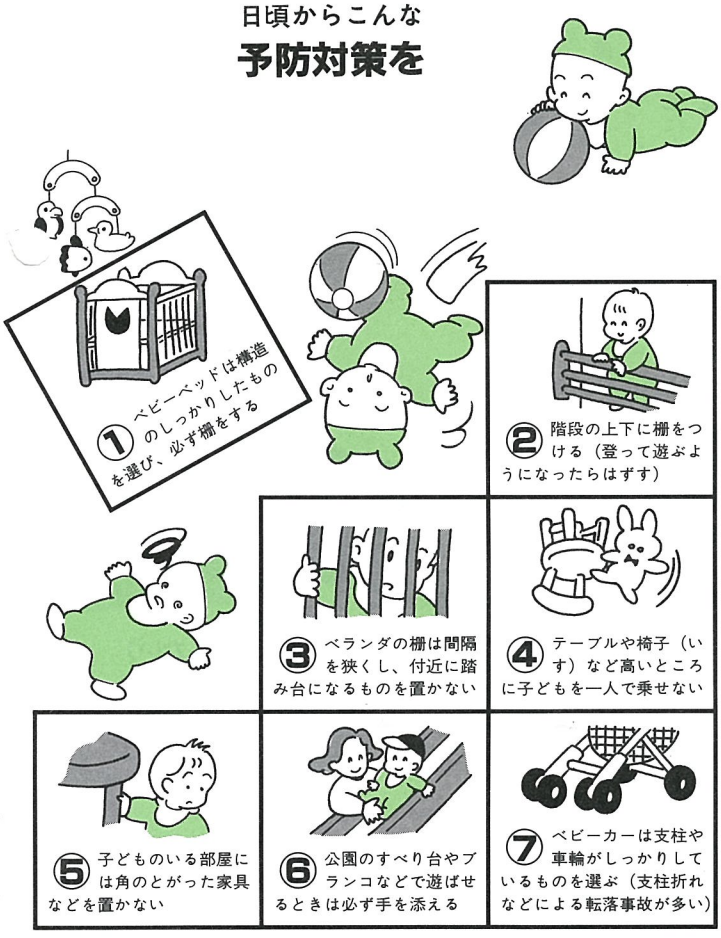
乳幼児には危険がいっぱい

転落・転倒

つまずいて転んだり、高いところから落ちたりするのは、どんな子どもでも何回かは経験するものです。しかし、打ちどころが悪いと骨折など思わぬ大ケガにつながることもあり、油断できません。

特に、危険なのは、頭の打撲です。頭を強く打ったときは、まず意識があるかどうかを確認します。大声で泣くようならひとまず安心ですが、もし、呼びかけても反応しないなど、意識がはっきりしない場合は、急いで救急車を呼んで下さい。また耳や鼻から出血がある、吐く、けいれんする、顔色が悪いなどの場合も、救急車を呼びます。いずれの場合も、頭をゆすってはいけません。意識がはっきりしている場合は、安静に保って、冷静にケガの状態を観察してください。コブができている場合は、冷たいタオルで冷やし、傷口から出血している場合は、清潔なガーゼなどで押さえます。頭を強く打った場合は、何日かして症状が出る場合もありますから、たとえ元気でも念のために病院（外科・脳外科）へ連れていきます。また、日頃から階段やいすなど、子供がつまずきやすい所は、予防対策を心がけましょう。

日頃からこんな
予防対策を



10月は「労働保険適用月間」

労働保険は、労働者を1人でも雇用する事業主は、加入することが法律で義務づけられています。

問合せ　千葉県労働基準局労災補償課　☎043－221－4311